

「社会に信頼される会社であること」を
引き続き基本理念とし、
世界中の人々から信頼される
会社をめざしてまいります。

当社は、「社会に信頼される会社であること」を基本理念とし、経営の透明性・公正性の確保を重要課題として事業を推進してきました。2013年にスタートした第5次中期経営計画においても、「社会に信頼される会社であること」を引き続きグループ経営の基本理念とし、「事業収益の最大化」と「経営基盤の質的強化」を基本方針としています。事業収益の最大化に向けたポートフォリオの再構築では、ウオッチ事業を中核に各セグメントの目標を明確に設定しました。また、経営基盤の質的強化では、財務体質の改善と持株会社の役割強化、人財活用促進を課題に掲げ、グループの持続的成長に向けた横断的な仕組みづくりを進めてまいります。さらに、スポーツ計時支援や音楽協賛活動を通じてステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを深め、ブランド価値の向上をはかることによって、世界中の人々から信頼される会社をめざしてまいります。

セイコーホールディングス株式会社
代表取締役社長

中村吉伸

人々の心を躍らせる
「エモーショナル・テクノロジー」で、
お客さまの期待を超える
商品・サービスを追求してまいります。

「常に時代の一步先を行く」創業者・服部金太郎のこの信念のもと、セイコーが国産初の腕時計を世に送り出してから100年が経ちます。この間、私たちは絶えず技術革新に取り組み、その時々々のライフスタイルにふさわしい腕時計をつくり続けてきました。また、エレクトロニクス分野で培った研究成果を活かし、車載用の高付加価値ICや、ハードにソフトとサービスを組み合わせたシステムソリューションの提供など、幅広い事業を通じて社会の発展に貢献してきました。これからは、今まで信頼を得てきた優れた品質や先進的な技術に加え、人々の心を躍らせる「エモーショナル・テクノロジー」で、次の世界を切り拓いていきたいと考えています。感性に訴える技術、あるいは遊び心を持った機能やデザインによって、これまでにない、お客さまの期待を超える商品・サービスを追求してまいります。

セイコーホールディングス株式会社
代表取締役会長兼グループCEO

服部 真二

CONTENTS

グループCEO・社長メッセージ	01	セイコーホールディングスグループのCSR	20
第5次中期経営計画	03	コーポレート・ガバナンス	21
特集 常に時代の一步先を行く	07	お客さまとともに	23
グローバルネットワーク/沿革	11	お取引先とともに	24
事業紹介	13	株主・投資家とともに	25
ウオッチ事業	13	社員とともに	26
電子デバイス事業	14	グループCEOと社員の対話	27
システムソリューション事業	15	地域・社会とともに	29
その他	17	SEIKO 130 Actions	31
セイコーホールディングス	19	環境保全の課題解決に向けて	32

当社は「社会に信頼される会社であること」を
 引き続きグループ経営の基本理念とし、
 2014年3月期を初年度とする3か年計画である
 第5次中期経営計画を策定しました。

セイコーホールディングスグループの基本理念

社会に信頼される会社であること

- ・常にお客さま本位の姿勢を大切に、質の高い商品・サービスを提供します。
- ・お客さまに育てられてきた「SEIKO」ブランドの価値をさらに高めます。
- ・経営の透明性・公正性を一層高め、環境への配慮に努めます。

第5次中期経営計画の基本方針

事業収益の最大化に向けて
 ウオッチ事業を中核に
 事業ポートフォリオを再構築すると共に、
 経営基盤の質的強化を実現します。

基本方針1

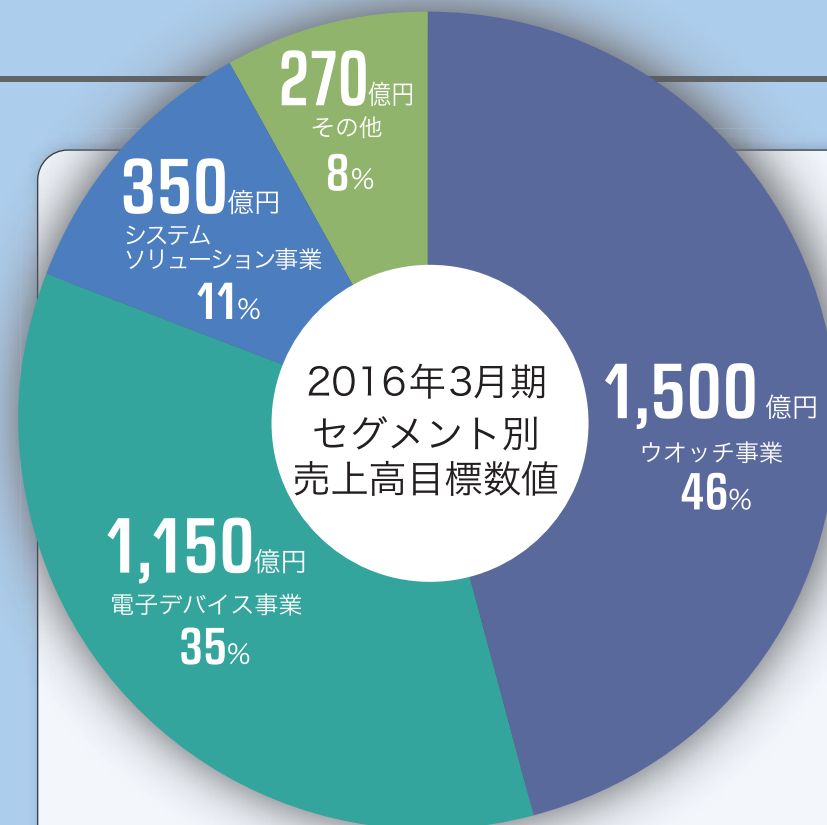
事業収益の最大化

- 1 グループの基盤事業であるウオッチ事業の強化・拡大**
 完成品ビジネス、ムーブメントビジネスの総合力を発揮した戦略実行による収益の最大化。
- 2 電子デバイス事業はコアビジネスへの集中**
 時計をベースにした「匠・小・省」の技術を最大限活かしながらコアとなる事業分野に資源を集中し、安定的な収益構造を確立。
- 3 第3の柱としてシステムソリューション事業を育成**
 セイコーソリューションズ(株)を核とし、グループが保有するリソースを活用した付加価値の高いソリューション提案ビジネスを育成。
- 4 セイコーブランドを有効活用したビジネス展開の拡大**
 各種製品におけるブランド活用を一層強化すると共に、ブランドイメージ・認知度向上に向けた活動を継続。

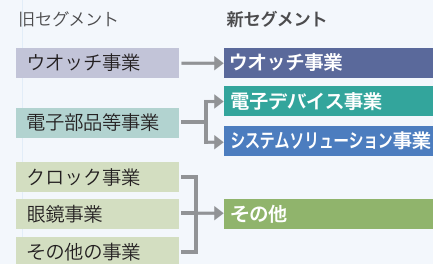
基本方針2

経営基盤の質的強化

- 1 財務体質の改善**
 さらなる有利子負債の削減と自己資本比率の改善を実現。
- 2 持株会社の役割強化**
 持株会社によるグループ経営上の戦略的意思決定及び事業会社サポート機能の強化。
- 3 人財活用の促進**
 事業の持続的成長に向けた人財育成やグループ横断的な人財交流の仕組みづくり。



セグメントの変更



従来の電子部品等事業を半導体、水晶振動子、電池・材料、プリンタ、ハードディスクコンポーネントおよびカメラ用シャッター等を取り扱う電子デバイス事業と、データサービス、電子辞書、情報ネットワークシステム等を取り扱うシステムソリューション事業に区分します。ウオッチ事業、電子デバイス事業およびシステムソリューション事業を報告セグメントとして開示し、クロック事業、眼鏡事業、その他の事業は「その他」として一括して区分します。

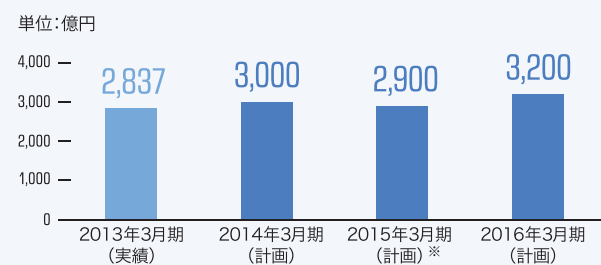
※円グラフ上の売上高目標数値・比率は、各事業間の内部売上高または振替高調整前の数値に基づいて算出しています。

中期経営計画目標数値 (2016年3月期連結)

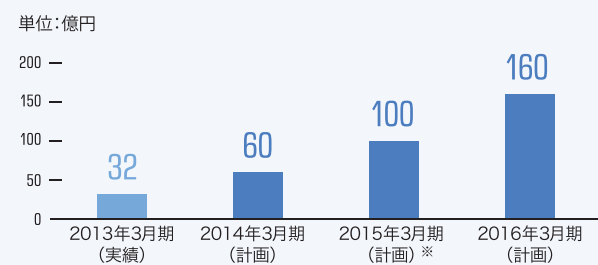
売上高	3,200億円	有利子負債※	1,750億円
経常利益	160億円	自己資本比率	17.6%
経常利益率	5.0%	ネットD/Eレシオ※	2.1

※借入金+リース債務
 ※負債資本倍率

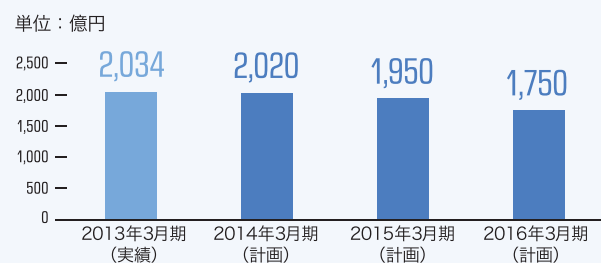
連結売上高



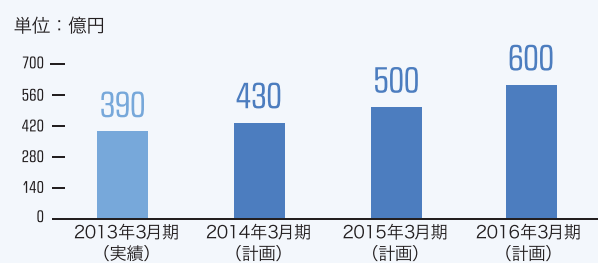
連結経常利益



連結有利子負債



連結自己資本



その他

2016年3月期目標数値

売上高 **270** 億円 営業利益 **10** 億円

- ポイント
- 【クロック】「SEIKO」ブランド商品の強化、原価低減、海外販売拡大による黒字化
 - 【眼鏡】HOYA社との提携によるコスト競争力・収益力向上、「SEIKO」ブランドの市場展開の拡大
 - 【システムクロック/スポーツ機器】新商材の開発、営業体制再強化、アジアでの新規顧客開拓
 - 【小売】和光の収益改善による安定した黒字化



システムソリューション事業

2016年3月期目標数値

売上高 **350** 億円 営業利益 **20** 億円

- ポイント
- ハード、アプリ、データセンターの複合サービスによる高付加価値ビジネスの追求
 - セイコーソリューションズ・セイコーインスツルの協働による事業展開の推進・拡大

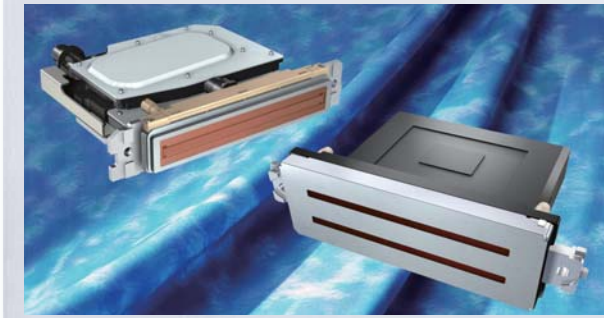


電子デバイス事業

2016年3月期目標数値

売上高 **1,150** 億円 営業利益 **70** 億円

- ポイント
- 「半導体事業」と「インクジェットプリントヘッド事業」をコア事業に位置付け最大注力
 - 過度な売上拡大に頼らず市場動向を見極めた慎重な投資の推進、利益の確保



ウォッチ事業

2016年3月期目標数値

売上高 **1,500** 億円 営業利益 **130** 億円

- ポイント
- グランドセイコーによる高級品ビジネスの拡大
 - GPSソーラー「セイコー アストロン」のコアビジネス化
 - セイコーウォッチ・セイコーインスツル協働によるメカニカルウォッチビジネスの強化



東京マラソン・大阪マラソン
「セイコー市民ランナー応援プロジェクト」



©東京マラソン財団



TOKYO FM「SEIKO presents
松下奈緒 Sound Story」



「SEIKO presents "Starry
Night Concert"」



IAAF世界陸上モスクワ2013

SPORTS
スポーツ

MUSIC
音楽



「Seiko Design Project 2012」

DESIGN
デザイン

ブランドイメージ・
認知度向上に向けた活動

常に時代の一步先を行く

ニッポンの腕時計。 セイコーの100年

創業者・服部金太郎が説いた「常に時代の一步先を行く」という精神。それを受け継ぎ、すべての人が正確な時間を手にするための技術革新と、時代のライフスタイルにあった製品の創出を突き進めたセイコーの腕時計100年の歴史をご紹介します。

いずれは腕時計が主流になる、
という思いから

今から100年前の1913年、セイコーは国産初の腕時計「ローレル」を発売します。100年前といえば、置時計や掛時計、そして懐中時計が主流の時代。世界を見渡しても腕時計をつくるメーカーは数えるほどしかありませんでした。そんな時代にあつて、創業者・服部金太郎は「いずれは腕時計が主流になる」という思いから、腕時計の国産化に挑み、誕生したのが「ローレル」です。彼を駆り立てたのは、「常に時代の一步先を行く」という精神でした。



LAUREL
国産初の腕時計
「ローレル」

1913

世界水準の高精度と
普遍的で高度な
デザインを実現

1960年代に入り、腕時計が普及していくと、より高い精度が求められるようになり。この頃、セイコーは日本の精度コンクールへの出品を始め、世界の強豪メーカーと精度を競うまでに製造技術を磨き上げていきます。

こうした技術の蓄積から、当時のスイス・クロノメーター優秀規格と同等の精度を誇る「グランドセイコー」は生まれました。精度に加え、視認性、使いやすさ、長く愛用できる普遍的なデザインを追求。いまなお続く、実用時計の最高峰「グランドセイコー」の特徴は、50年以上も前につくられたのです。



GRAND SEIKO
初代「グランドセイコー」

1960

時計史に残る偉業、
世界の精度基準を
変えた駆動機構

1969年、セイコーは世界初のクォーツ式腕時計「クォーツアストロン」の製品化に成功し、世界を驚かせます。これは、腕時計サイズに収めるため、心臓部である水晶振動子の小型化、そして省電力化の研究を重ねた結果であり、その精度は高精度の機械式時計が日差±20秒程度であるのに対し、日差±0.2秒(月差±5秒)という驚異的なものでした。さらに、その特許を公開したことで、クォーツ式腕時計は爆発的に普及していきます。これは時計史に残る偉業といわれ、セイコーブランドを世界に知らしめることとなりました。



QUARTZ ASTRON
世界初のクォーツ式腕時計
「クォーツアストロン」

1969

「常に時代の一步先を行く」という精神を
心に刻みながら

国産初の腕時計によって踏み出したセイコーの第一歩は、日本の腕時計の歴史を方向づけることになりました。ムーブメントから自社で二貫生産するマニユファクチュールとして、他社には真似できない唯一無二の時計を生み出す力、二世紀にわたる徹底した時代の要求に応える時計づくりが、いま世界で評価されています。セイコーは、これからも「常に時代の一步先を行く」という精神を心に刻み、次の100年に向けた腕時計づくりを進めていきます。

時代のライフスタイル
にあつた
腕時計を提案する

セイコーは技術革新によって腕時計の精度を高めていくとともに、それぞれの時代のライフスタイルにあつた腕時計を提案してきました。

1995年、女性のキャリア志向を支援する風潮が強まってきた時代を背景に、「セイコー ルキア」を発売。働く女性にとつての使いやすさを考慮し、従来の女性用の腕時計よりも大ぶりでしたっかりとした作りを持ったこのシリーズは、発売後すぐに人気を博し、現在に至るまで数多くの女性の支持を得ています。

SEIKO LUKIA

働く女性のためのウォッチ「セイコー ルキア」

1995



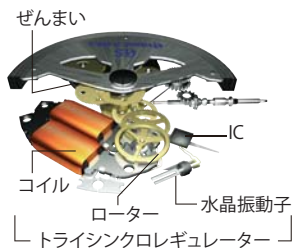
機械式、
クォーツ式に次ぐ
第3のムーブメント

ミレニアムを目前に控えた1999年、セイコーは、機械式時計の複雑な仕組みとクォーツの高精度を兼ね備えた世界唯一の駆動機構「スプリングドライブ」を開発し、このムーブメントを搭載した腕時計を発売します。ぜんまいを動力源としながらクォーツの正確な信号によって制御するスプリングドライブは、機械式腕時計を極め、クォーツ式腕時計を世界に先駆けて送り出したセイコーならではの技術革新といえます。

SPRING DRIVE

世界初、世界唯一の駆動機構
「スプリングドライブ」

1999



ぜんまい
IC
コイル
ローター
水晶振動子
「トライシンクロレギュレーター」

腕時計に
新たな革命をもたらす
世界唯一のGPS
ソーラーウォッチ

2012年、セイコーは、グローバル時代に応える腕時計の新シリーズとして「セイコーアストロン」を発売します。地球上のあらゆる場所で、いつでもすばやく正確な時刻を得ることができる世界唯一のGPSソーラーウォッチは、発売以来世界で高い評価を得ています。「セイコーアストロン」は、1969年に世に送り出したクォーツ式腕時計に、ソーラーとGPSの先進技術を組み合わせた、まさにセイコーが作りあげてきた腕時計の集大成といえます。

SEIKO ASTRON

世界唯一のGPSソーラーウォッチ
「セイコーアストロン」

2012



2013

次の100年が動きだす。



Japan's First



1999 日本初 無線カード決済サービス「CREPICO(クレピコ)」



タクシー向けマルチ電子決済サービス

時代をリードしてきた セイコーの「多彩な顔」

セイコーは、1930年に日本で初めてカメラ用シャッターの製造を開始するなど、時計以外の分野においても革新的な商品・サービスを世に送り出してきました。卓越した匠の技に加え、エレクトロニクスやデジタルの最新技術を駆使することによって、常に時代の一步先をめざしてきた、セイコーの「多彩な顔」をご紹介します。

トータルソリューションをめざし、 モバイル決済システムで先駆ける

クレジットカードやデビットカード、鉄道会社が発行する交通系電子マネー、コンビニやスーパーが発行する流通系電子マネーなどの普及を受け、さまざまなシーンでクレジットカードや電子マネーによる支払いを可能にするモバイル決済システムの普及が進んでいます。

こうしたモバイル決済システムの先駆けとなったのが、1999年にサービスを開始した日本初の無線によるクレジットカード決済システム「CREPICO(クレピコ)」です。このサービスにより、有線回線が設置できないタクシーや訪問販売、展示即売会においても、クレジットカードによるリアルタイムな決済を実現しました。

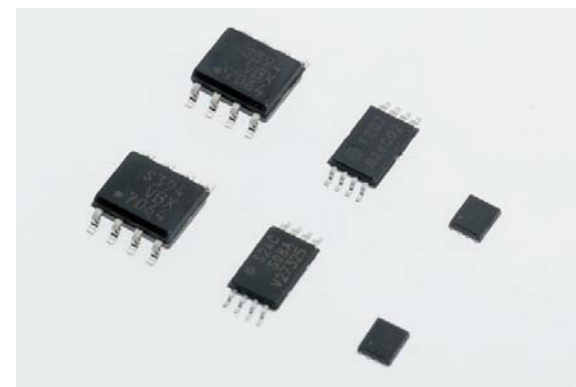
特にタクシー業界では、深夜に手持ちの現金がない方や、長距離利用のお客さまを中心に、クレジットカードで支払いができるシステムが求められていました。そこで、クレピコをタクシーメーターと連動させることで入力の手間やミスをなくし、走行中の振動や車内温度の上昇などの過酷な環境でも耐えられる専用のカード決済端末を開発しました。翌2000年には、背広のポケットやハンドバッグの中にも入る世界最小の決済端末を開発し、その機能性をさらに高めました。

そして2013年、従来のクレジットカード、デビットカードだけでなく、交通系電子マネーなどにも対応したタクシー向けマルチ電子決済サービスを開始。お客さまの多様化するニーズに応え、さらなる利便性向上をはかっています。

World's First 1970



世界初 CMOSICを搭載した腕時計「クオーツ アストロン365QC」



125°Cの高温でも動作する車載用EEPROM

クオーツウオッチの開発をルーツに、 活躍の場を広げてきたIC

いまやICは、スマートフォンやタブレットなどの情報端末から自動車、デジタル家電、産業機器、さらにはネットワークやセキュリティ関連機器に至るまで、あらゆるところで採用されています。なかでも消費電力が低く、機器の小型化、高機能化に貢献するCMOS ICは、さまざまな分野で採用が拡大しています。

CMOS ICの事業化には、クオーツウオッチの開発が大きく寄与しました。消費電力が低く、ウオッチ用として優位性のあるCMOS ICでしたが、60年代末の時点ではまだ実用化の目処が立っておらず、海外の時計メーカーは別の方式でクオーツウオッチの開発を進めていました。そうした状況のなか、アメリカのベンチャー企業との共同により、1970年に世界で初めてCMOS ICを搭載したクオーツウオッチの開発に成功したのです。70年代半ばには、自社でウオッチ用ICの開発・製造を行うようになり、さらなる省電力化などでその性能を向上させていくとともに、ストップウオッチやアラームといったクオーツウオッチの高機能化を次々と実現していきました。

80年代に入ると、ウオッチ用ICで培った実績とノウハウをもとに、対外向け各種ICの開発と販売をスタートします。そして、電源用ICやセンサ、メモリなど、年々ラインナップを広げ、事業を拡大してきました。現在では、その実力が高く評価され、車載用*EEPROMやリチウムイオン二次電池保護ICで、世界トップクラスのシェアを誇っています。私たちが普段使っているスマートフォンや自動車など、幅広い分野でセイコーのICは「低消費電力」「高信頼性」「超小型」を支えています。

*Electrically Erasable Programmable Read-Only Memoryの略。不揮発性メモリの一種で、コンピュータなどの電子機器で電源を切っても保持しておくべきデータを格納するために使われている。

さまざまなスポーツシーンで 感動の共有をサポート

0.1秒、0.01秒、時には0.001秒。スポーツでは、その僅かな差で勝敗が決します。それを支えているのは、正確な計時を行う機材、システムであり、オフィシャルタイマー(公式計時)の役割は非常に重要なものとなっています。

1964年の東京オリンピックに向けて世界初の総合的電子計時システムの開発をスタートして以来、セイコーは継続して機材の開発、改良を続け、IAAF世界陸上をはじめとした数々の大会でオフィシャルタイマーを務めています。

2010年、新しく走幅跳と三段跳の正式計時システムとして導入された「VDM(ビデオ距離測定装置)」は、フィールドの外に設置した2台のカメラで跳躍をとらえ、計測員がモニターに表示された選手の画像の着地点にカーソルを合わせるだけで走幅跳と三段跳の計測が可能です。正確で迅速な計測を実現するだけでなく、競技エリアの計測員や機材を減らすことができるため、観客席から競技も見やすくなりました。

IAAF世界陸上2013モスクワでは、フルカラーLEDパネル搭載のフィールドイベントボードを導入し、フィールド競技の進行状況や選手紹介などの情報を高い視認性で観客に提供しました。

正確な計測に加えて、観客が選手とできるだけ近い目線でスタジアムが一体となつて感動の瞬間を共有できるよう、セイコーは今後も機材の開発を進めていきます。

World's First 1964



世界初 総合的電子計時システム(写真はマラソンタイマー)

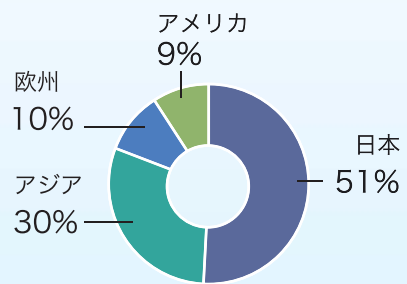


IAAF世界陸上2013モスクワで導入したフィールドイベントボードとVDMの画像

世界に広がるグローバルネットワーク



地域別売上高構成比
(2013年3月期連結)



世界各地に製造・販売拠点をおき、
各国に広がる代理店ネットワークを通じて
グローバルに事業を展開しています。

セイコーの歩み



ウオッチをはじめ、電子デバイス、システムソリューションの3事業を軸に、さまざまな事業を展開しています。グループ各社が連携しながら、さらなる飛躍をめざします。

ウオッチ事業

1913年に国産初の腕時計を発売してから100年。この間、革新的な商品を次々と世に送り出し、ムーブメントから自社で一貫製造する世界でも数少ないマニユファクチュールへと成長してきました。これからは世界のウオッチ業界においてリーディングカンパニーとなることをめざします。

腕時計に新たな革命をもたらす 世界唯一のGPSソーラーウオッチ

2012年、世界中の全39のタイムゾーンに対応し、ボタン操作ひとつで地球上のあらゆる場所でもいつでも正確な時を知ることができる、世界初のGPSソーラーウオッチ「セイコー アストロン」を発売しました。かつて、セイコーは世界初のクォーツウオッチ「クォーツアストロン」で腕時計



世界初GPSソーラーウオッチ「セイコー アストロン」

の世界に革命をもたらしました。これに続く第二の革命と位置づける「セイコーアストロン」は、発売以来、世界中から非常に高い評価を得ており、今後、既存の腕時計の概念を覆す新たな腕時計のスタンダードとなることをめざしています。

匠の技と先進技術で生み出される 高級機械式腕時計

2004年、高級機械式腕時計の需要の高まりに応え、岩手県に「隼石高級時計工房」を設立しました。高級機械式腕時計を専門に、部品製造から完成品の組み立てまでを一貫して行う日本有数の工房です。高精度を支えるマイクロン単位でのぜんまい調整、厚み1.98mmの極薄ムーブメントの組み立て、繊細で優美な彫金などの匠の技と、新合金や最先端金属成型技術による部品製造などの先進技術の融合により、最高品質の機械式腕時計をつくっています。



隼石高級時計工房 (岩手県)

お客さまのニーズに応える 幅広いブランドマーケティング

多様化が進むお客さまのニーズに応えるため、「SEIKO」を中心に国内外で幅広いブランドマーケティングを行っています。実用時計の最高峰「グランドセイコー」をグローバルに展開するほか、国産最高級ブランド「クレドール」、自分らしく生きる女性のための「セイコー ルキア」など、個性豊かなプロダクトブランドで、さまざまなライフスタイルにあった腕時計を提供しています。また、2013年には、世界的に拡大を続けるファッション・スポーツウオッチ市場に向け、グループ内の関連事業を統合した新会社を設立するなど、シエア拡大をはかっていきます。



グランドセイコー



セイコー ルキア

主な事業会社
セイコーウオッチ株式会社
セイコーインスツル株式会社
セイコープレジジョン株式会社
セイコーネクスステージ株式会社

電子デバイス事業

時計製造で培った精密加工技術や小型・省電力技術などを活かし、半導体やインクジェットプリントヘッド、水晶振動子、カメラ用シャッタなどのさまざまな高精度な精密部品や機器を提供。高度化する社会と産業のニーズに、世界中で応えています。

デジタル機器の進化を支える

時計製造を通じて育まれたサブミクロンレベルの精密加工技術を活かし、自動車のABSブレーキ部品や、エンジン・トランスミッションに使われる部品、ならびにデジタルカメラ用シャッタなどを提供しています。また、こうした金属加工の現場で培われたノウハウを凝縮した工作機械は自動車部品メーカーなどで多数採用されています。さらに、感熱紙に熱を加えて印字するサーマルプ

小型化、低消費電力化、 高機能化を実現

クォーツウオッチ開発から生まれた電子部品は、スマートフォンやデジタル家電、自動車、産業機器などの分野で幅広く活躍しています。CMOS ICや水晶振動子は小型、低電圧駆動、低消費電力、高精度で機器の小型化、高機能化、駆動時間の長時間化に貢献。なかでも、CMOS ICは、厳しい環境下での安定動作が求められる車載用にも多く採用され、その実力が高く評価されています。また、水晶発振器用ICは世界シェアナンバーを誇ります。インクジェットプリントヘッドは、大型サイン・グラフィックの出力だけでなく、繊維製品の捺染など、さまざまなアプリケーションに採用されています。

メカトロ



デジタルカメラ用シャッタ

自動車用精密加工部品

サーマルプリンタメカニズム

電子部品および周辺機器



CMOS IC

インクジェットプリントヘッド

マイクロ電池

水晶振動子

プロッタ・プリンタ、計測分析機器



ワイドフォーマットインクジェットプリンタ



放射能測定装置

確かな技術力で高まる安心感、 極まる生産性

屋外看板やポスター印刷用の大型インクジェットプリンタ、設計図面を出力するマルチファンクションプリンタは、確かな技術によって高生産性と高画質の両立、使いやすさ、環境への対応を実現し、お客さまの業務を支援します。また、海外主要メーカーと提携し、国内で輸入・販売を行っている放射線測定装置は、極めて微量な放射性物質の検出や核種特定が可能で、国や大学・企業の研究機関、地方自治体所轄の水道局や衛生試験所など多方面で活躍しています。

主な事業会社

セイコーインスツル株式会社
セイコープレジジョン株式会社
セイコーネクスステージ株式会社

システムソリューション事業

グループが保有するモバイルやネットワークなどの技術力を活用し、ハード、アプリケーション、データセンターの複合サービスで、付加価値の高いソリューションビジネスを育成。電子決済、エネルギーなど、信頼をキーワードに、これからの社会でより重要となる分野を視野に入れ、商品・サービスの開発を進めています。

「精密」「正確」のDNAを活かしたシステムインテグレーション

総合的なシステムインテグレーション力と、きめ細やかなサポートで、情報ネットワークシステムの企画、開発から運用、保守までをトータルにプロデュース。ネットワーク上における時刻の正確性・信頼性をサポートする「サイバertimeソリューション」や、あらゆるエネルギーデータを見える化

システムインテグレーション

電力に留まらない総合管理を実現する
エネルギー監視・制御ソリューション



エネルギー監視・制御ソリューションシステム
「GreenTALK」



サイバertime
ソリューション



2006/06/10
10:08:59
いつでも
いつでも
タイムスタンプサービス

決済ソリューション



クレビコ情報処理センター・無線決済端末



非接触 IC 決済端末

決済ビジネス 各種サービス

ネットワークソリューション



マルチプロトコルコンパクター
USTシリーズ

Netwiser ロードバランサ

モバイル
Wi-Fi ルーター

タイムサーバ TS-2850

広がり続けるネットワーク社会に
新たな価値を

長年にわたるネットワーク技術の蓄積と豊富な接続実績をもとに、TCP/IP上のシステムと必要な外部情報を接続し、OS環境やプロトコルの違いを超えたシームレスな情報の一元化を可能にするマルチプロトコルコンパクターUSTシリーズや、ネットワーク上に標準時刻を配信するタイムサーバをはじめ、イーサネット上で高い品質が要求される時刻・音声・動画といったデータをスムーズに確実に通信するための各種ネットワーク機器など、信頼性と安定性の高い自社開発アプリケーション機器を提供しています。これからも、人と情報を快適につなぐため、ネットワーク技術の進化を常に先取りした商品群を提供していきます。

主な事業会社

サイコーソリューションズ株式会社
サイコーインスツル株式会社

お客さまの想像を超える創造力と
時代の一步先を読み取る感受性で、
ソリューションビジネスを
第3の柱に育てていきます

サイコーソリューションズ株式会社
代表取締役社長
山本 隆章



3つの軸でソリューション事業を推進

当社は、ウオッチ、電子デバイスに次ぐ第3の柱としてシステムソリューション事業を育成することを目的に、サイコープレジジョンからシステム事業、サイコーインスツルからクロノトラス事業の譲渡を受け、2013年4月に新会社としてスタートしました。

当社が持つ「システムインテグレーション」「決済ソリューション」「ネットワークソリューション」の3つの軸と、サイコーインスツルのシステムアプリケーション事業を持つ「無線」「端末」「決済センターサービス」とを一つのシステムソリューション事業セグメントとし、ハードウェア、ソフトウェア、サービスを組み合わせたソリューションビジネスとして推進していきます。グループの持つリソースを融合し、一つの事業体として最大限に機能させることでスピード感をもつてお客さまの課題解決にお応えします。

ソリューションの基盤となる
サイコーならではの技術

私たちのコア技術は、「時間」や「空間」、「情報」をキーに、サイコーの「確かな品質」に基づき、「人と人」「モノとモノ」をつなぐ技術です。インターネットが普及する以前から、情報ネットワーク分野のパイオニアとして培ってきた技術と実績が私たちを支えています。常に最新のプロトコルやソフトウェア、ハードウェア技術、ネットワーク技術を磨き、製造、建設、金融、流通、飲食、各種通信など多くの分野で、時代とともに



変化するお客さまの要請に応えてきました。また、サイコーの「時」へのこだわりは、デジタル化の進展に伴い、カタチを変えて

当社にも脈づいています。正確な時刻情報を提供するタイムサーバや、正確な時刻を認証するタイムスタンプとして、時刻配信や時刻認証のビジネスがあらゆる分野に拡大しています。時代やお客さまの環境に合わせたソリューション提案の核になる「商品の信頼性」については、業界の中で認知いただいているという自負があります。

ユーザーオリエンテッドな視点で、常に新しいビジネスを創造

私たちは、ユーザーオリエンテッドな視点を最も大切にしています。お客さまの状況を理解し、お客さま自身では気づかないところまでメリットを拡大し提供することで、私たちのことを認めていただけますし、新たな仕事にもつながっていきます。そのためには、お客さまのニーズを敏感に感じとる感受性《Sensitivity》と、自分たちが持っているシーズを組み合わせて新しいビジネスを作り出す創造力《Creativity》、そして社員一人ひとりの行動力《Activity》を併せ持つことが大切です。そういう人材を育成し、サポートし、一人ひとりが新しいソリューションビジネスを創造し続ける会社となることをめざしてまいります。

その他

■クロック

掛時計の製造開始より120年、常に時代をリードするクロックを提供してきました。企画・開発・製造から販売・アフターサービスまでを一貫して行うクロックのトータルカンパニーとして、伝統に支えられた高い品質とモノづくりの技、先進技術の融合により、幅広い商品ラインナップを誇ります。

■進化した電波時計「衛星電波クロック」

2013年、GPS衛星からの時刻情報を受信し自動的に表示時刻を修正する「衛星電波クロック」を発売しました。標準電波を利用する従来の電波時計に比べ、屋内でも受信可能な範囲が拡大、受信スピードが最短10秒と大幅に短縮されました。GPS衛星の信号を受信できるところであれば、国や地域にかかわらず正確な時刻表示を実現する、世界中で使用可能な、まさに進化した電波時計といえます。

■時計に初めてふれることも“とき”の学びをサポートする知育時計

子育て世代の知育時計への関心の高さに応え、針や文字板の色使いを工夫したデザインで、時計に初めてふれることも“とき”の学びをサポートする知育時計に力を入れています。こども部屋

■眼鏡

90年以上の歴史を誇る眼鏡事業。メガネレンズ・フレームの企画から販売までを行っています。レンズとフレーム双方を扱う世界的にも数少ない会社として、その特色を活かしお客さま一人ひとりに最高、最適なパフォーマンスを実現するメガネを提供し、「メガネはセイコー」の浸透をめざします。

■究極の「お客さま仕様」を追求した「ティラーメイドレンズ」「スペリオールPX」

1997年に世界初の遠近両用ティラーメイドレンズを発売して以来、セイコーは一人ひとりの「お客さま仕様」をめざしたレンズの開発を進めてきました。2013年に発売した「スペリオールPX」は、セイコーの最新技術により実現した、究極の「お客さま仕様」を追求した遠近両用ティラーメイドレンズのフラッグシップモデルです。ライフスタイルや使用シーン、組み合わせるフレームの形状に合わせてきめ細かな設計が可能で、薄く軽く、快適な心地を実現します。

■信頼性とデザイン性を追求した「フレーム」「セイコープレジャージュ」

2013年に発売した「セイコープレジャージュ」は、腕時計からインスピレーションを得た優れた機能性と精巧なデザインを兼ね備えた、セイコーフ

に最適なスタンダードな掛時計・目ざまし時計から、針を動かしたり、マグネット式のプレートを使い、キャラクターと一緒に時計にふれ合ったりしながら、日常の生活時間と時計を結びつけて、楽しく時計の読み方をおぼえられる掛置兼用タイプまで、幅のある商品展開をはかっています。

■スマートフォンへの充電にも対応した「防災クロック」

阪神・淡路大震災、東日本大震災以降、地震大国・日本で需要の高い防災クロックに力を入れていきます。スマートフォンへの充電機能、AM/FMラジオの自動選局機能を付加し、生活防水仕様に加えバックアップしたアナログ時計が新たに加わりました。電波修正機能付きの大きな液晶が見やすいデジタル置時計、振動センサーで自動点灯する、業界初「安心ライト」のついた掛時計と、幅のある商品展開をはかっています。



ドラえもんと一緒に学べるドラえもん知育時計



世界中で使用可能な進化した電波クロック「衛星電波クロック」

■主な事業会社
セイコークロック株式会社

フレームのフラッグシップコレクションです。機能面では、セイコーインスツル(株)の世界に誇る合金技術の結晶である非常に優れたバネ性を持つ合金「スプロン」と、精密コイルバネ設計を応用した新構造を採用することで、今までにない優れた装着感と耐久性を実現しました。デザインは、時計のリユウズをイメージした丁番デザインにセイコープレジャーの頭文字「SP」を施すなど、細部までこだわりのあるものとなっています。

■小売

■おもてなしの心でお客さまに接する「銀座の高級専門店」

銀座を代表する高級専門店・和光では、時計をはじめ、宝飾品、紳士・婦人用品、室内装飾品、食品など、お客さまの声を取り入れて独自に開発した、あるいは国内外から厳しい目で選び抜いた、高い品質を誇る品を幅広く取り揃え、質の高いサービスを提供しています。また、銀座の街を見守る和光の時計塔は2012年に竣工80年を迎え、この間、銀座のシンボルとして多くの人々に愛されてきました。これからも、長い歴史と伝統のなかで培ってきた上質へのこだわりとおもてなしの精神で、お客さまとの信頼関係を大切にしていきます。



和光本館

■主な事業会社
株式会社和光

■システムクロック/スポーツ機器

■公共の空間やスポーツシーンで活躍

学校・病院などの公共施設で使われる設備時計、街を彩るからくり時計、放送局用時計等の専門的な時計から、1万分の1秒まで計測可能なスポーツ時計計測機器、競技処理コンピュータシステムおよび各種大型表示盤やスコアボード等、システムクロックやスポーツ機器の企画・開発から製造・販売、アフターサービスに至るまで総合的に行っています。また、国際大会等で培われた豊富な経験と、高度な技術力をベースに、各種スポーツ大会の計時支援活動も積極的に展開しています。



開業当時の姿に復元された東京駅丸の内駅舎の時計

■主な事業会社

■セイコーオプティカルプロダクツ株式会社



「メガネはセイコー」の新広告

■主な事業会社

■セイコータイムシステム株式会社

スムーズな連携で
相乗効果を高める

グループの持株会社として、連結経営管理、法務・知財管理、グループ広報、株主や投資家の方々に向けたIR活動などを担当。一人ひとりが有する専門知識を活かして、各事業会社が効率的・機動的な経営ができるようサポートしています。

また、グループ全体の長期かつ俯瞰的な舵取りを行い、グループの結束力と経営効率を高めるとともに、各社の連携によるシナジー効果の最大化をはかっています。



グループ内広報連絡会

持株会社の
役割強化に向けて

第5次中期経営計画では、経営基盤の質的強化をはかるための課題として、「持株会社によるグループ経営上の戦略的意思決定及び事業会社サポート機能の強化」を掲げ、左記の施策を推進しています。

1

グループ経営上の
戦略的意思決定の強化

事業の組織再編・構造改革、大型投資、アライアンスなどの重要案件に関する意思決定を持株会社が責任を持って主導。

2

事業会社サポート機能の強化

コーポレート機能の持株会社集約などグループ全体での運用効率化を推進。また、グループ共通課題への横串的役割を推進。

3

PR、IR、CSR活動の強化と
ブランド投資の継続

セイコーホールディングス株式会社 企業概要

創業	1881年(明治14年)
資本金	100億円
従業員数	95名(2013年3月31日現在) 14,712名(2013年3月31日現在連結)
売上高	87億円(2013年3月期) 2,837億円(2013年3月期連結)
事業の内容	ウォッチ、電子デバイス、半導体、クロック、眼鏡、高級服飾雑貨などを扱う事業会社の連結経営管理
本社所在地	〒105-8505 東京都港区虎ノ門2丁目8-10 TEL：03-6739-3111（代表）

連結財務ハイライト

	2013年3月期	2012年3月期
(単位：億円)		
売上高	2,837	2,969
営業利益	55	67
経常利益	32	12
当期純利益	55	△110
(単位：億円)		
純資産	408	319
総資産	3,553	3,861
自己資本比率(%)	11.0	6.2
1株当たり純資産(円)	188.76	131.65
1株当たり当期純利益(円)	29.41	△60.25